

専門研修プログラム（内部障害系コース）評価項目

（経験すべき病態・疾患と理学療法または作業療法）

研修生氏名 _____ 指導責任者氏名 _____ 提出日 _____

専門研修プログラム評価項目（経験すべき病態・疾患と理学療法または作業療法）

研修の目的は、疾病と病態に応じた専門的検査所見に基づいた身体機能評価及びそれに対応する専門的理学療法または専門的作業療法を的確に行う能力を獲得することにある。

必修項目：別に定める疾患、症例における検査測定評価、治療方針について年間3症例のレポート提出

【専門研修プログラム 内部障害系コース】

1 医療面接

患者・家族との信頼関係を構築し、理学療法評価または作業療法評価及び理学療法・作業療法に必要な情報が得られるような医療面接を実施するために、

	指導者評価		
	A	B	C
1) 医療面接におけるコミュニケーションの持つ意義を理解し、コミュニケーションスキルを身に付け、理学療法評価及び作業療法評価に必要な情報の聴取と記録ができる。			

2 検査測定と評価

病態の正確な把握ができるよう、全身にわたる理学療法評価または作業療法評価を系統的に実施し、記載するために、

	指導者評価		
	A	B	C
1) 全身の観察（バイタルサインを含む）ができ、記載できる。			
2) 運動負荷試験（CPX、6MDを含む）ができ、記載できる。			
3) 筋力検査ができ、記載できる。			
4) ADL及びQOLに関する検査ができ、記載できる。			
5) 内部障害にかかわる画像検査（CT、MRI、心電図、エコーを含む）や生理検査、投薬状況を読み取ることができ、記載できる。			
6) 内部障害の理学療法時に必要なモニタリング項目を説明し、リスクの層別化を実施できる。			
7) 他職種との情報共有（多職種合同カンファレンスを含む）を通して、患者の全体像を理解し、理学療法としての問題点の優先順位と具体的な介入方法を説明できる。			

3 基本的手技及び基本的治療法

	指導者評価		
	A	B	C
1) 病態に応じた運動処方立案ができ、記載できる。			
2) 呼吸理学療法（徒手排痰法を含む）ができ、記載できる。			
3) 有酸素運動（自転車エルゴメーター、トレッドミル）ができ、記載できる。			
4) レジスタンス運動（筋力トレーニング）ができ、記載できる。			
5) 末梢血管に対する理学療法（温熱刺激を含む）ができ、記載できる。			
6) 全身調整運動（ストレッチを含む）ができ、記載できる。			
7) 症例や症例家族に対する運動指導ができ、記載できる。			
8) 高リスク症例における運動療法の施行に際し、合併症発生を回避することができる。			